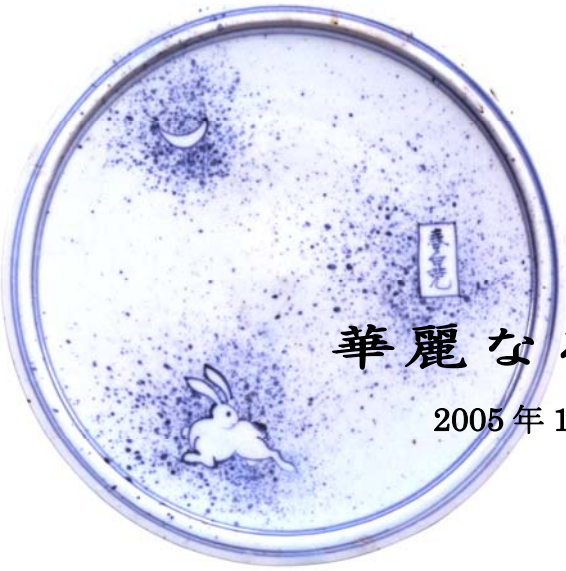


プレスリリース

特別展

華麗なる伊万里、雅の京焼

2005年10月4日（火）～　12月4日（日）

東京国立博物館　表慶館

日本陶磁史の中で最も華やかな時代、江戸時代のやきものの魅力をお楽しみいただく展覧会です。今回は、江戸のやきもののなかでも、とくに多彩な作品を生み出した肥前の伊万里と京都の京焼に焦点をあてます。

選りすぐりの作品約110件を表慶館の美しい空間に展示する特別展「華麗なる伊万里と、雅の京焼」を、貴媒体にてご紹介いただきたくお願い申し上げます。

【開催概要】

会　　期　2005年10月4日（火）～　12月4日（日）

会　　場　東京国立博物館　表慶館
　　東京都台東区上野公園13－9

開館時間　9：30～17：00、金曜日は20：00まで開館　(入館は閉館の30分前まで)

休　　館　月曜日　ただし10月10日(月)は開館、翌11日(火)休館

主　　催　東京国立博物館　読売新聞社

特別協力　JR東日本

観 覧 料　一般1300円（1200／1100)、大学・高校生900円（800／700）
　　＊中学生以下は無料
　　＊（　）内は、前売り／20名以上の団体料金です
　　＊障害者とその介護者一名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

内　　容　初期伊万里、古九谷、柿右衛門様式、金襴手など華麗で多彩な展開を見せた肥前の伊万里焼と、仁清、乾山、木米などの名工を次々と生み出した京都の京焼に焦点をあてた、江戸時代のやきものの展覧会。選りすぐりの作品約110件を、東京国立博物館表慶館（重文）の優美な空間に展示。

お問合せ　03-5777-8600（ハローダイヤル）

ホームページ　http://info.yomiuri.co.jp/event/　http://www.tnm.jp/

交　　通　JR上野駅公園口、鶯谷駅から徒歩10分、東京メトロ上野駅･根津駅
　　京成電鉄京成上野駅から徒歩15分

展覧会概要

江戸時代は日本陶磁史上最も華やかな時代です。そして江戸時代のやきものの中で、最も豊かな展開を示したのが伊万里と京焼であり、この展覧会ではこの二つのやきものに焦点をあてています。

伊万里と京焼はともに美しく飾られたやきものという点で共通するものがありますが、量産をベースに全国をさらには海外のニーズまでを視野に入れた伊万里と、少量でもより優れたものを作り出すことを目指した京焼というように性格は大きく異なっています。こうした伊万里と京焼をそれぞれ見ていただくことで、江戸時代のやきものの魅力がより多くの人に伝わると考えました。

会場となるのは通常、東京国立博物館で特別展を行う平成館ではなく、建物自体が重要文化財という表慶館です。表慶館は１階、２階あわせて８つの展示室からなり、このうち第1～4 室を伊万里、第 5～8 室を京焼として構成いたします。展示室毎に１～２つのテーマを設け、時代の流れに従いながら、伊万里と京焼の展開をご覧いただきます。

東京国立博物館表慶館の外観

明治 33 年（1900 年）、皇太子（後の大正天皇）のご成婚を記念して計画され、明治 42 年に開館した日本で始めての本格的な美術館です。明治末期の洋風建築を代表する建物として昭和 53 年（1978 年）に重要文化財に指定されました。

伊万里

この展覧会は日本で最初に磁器を焼いた伊万里から始まります。量産をベースにおいた伊万里は、時代によって作風を大きく展開させていきます。「初期伊万里、伊万里･古九谷様式、伊万里･柿右衛門様式、金襴手」これに伊万里を領内に擁した鍋島藩の藩窯で焼かれた「鍋島」を加え、17 世紀から 18 世紀前半にかけての伊万里の展開をご覧いただきます。

初期伊万里では日本初の磁器がどのようにして生まれたかをご覧いただきます。古九谷様式の色絵磁器では南京手、五彩手、青手といった作風毎に異なった視点で迫ります。初期の輸出物からヨーロッパを魅了する柿右衛門様式の完成への道をたどり、金襴手では輸出向けと国内向けとの作風の違いに目を向けます。鍋島では、あえて展示作品を皿に限り、極致とも言えるデザインの粋を堪能していただきます。

◇ 主な作品

染付吹墨月兎図皿

伊万里　1620－30 年代　東京国立博物館蔵

高 2.4cm 口径 19.9cm 底径 8.5cm

兎の形をした紙を置き、その上から呉須（染付の顔料）を吹き付けると、飛び散った青い斑点の中から、兎の愛らしい姿が白抜きとなって現れる「吹墨」という技法によって描かれています。

中国では元時代の青花（染付の中国での呼称）で既に行われていた技法ですが、日本からの注文をうけてつくられた古染付にも使われていました。中国陶磁への憧れの中から生まれた初期伊万里もまた、この技法を駆使して古染付に迫っています。

貸し出し写真１

色絵蝶牡丹図大鉢　重要文化財

伊万里･古九谷様式　1640－50 年代　個人蔵

高 8.8cm　口径 40.5cm　底径 21.0cm

古九谷様式の大皿を代表する作品です。器面を色釉で埋め尽くす、南京手、青手といった古九谷様式の作風の中で、珍しく白地を残す五彩手と呼ばれる作風を示しています。見込と側面を染付で区画し、見込の側面には亀甲文を配します。紺地を背景として亀甲文は緑、紫、黄色で彩られ、見込に描かれた大輪の牡丹は大胆にも紫で彩られています。濃彩を主とした絵付が行われる中で、赤彩の線描のみで描かれた蝶の可憐な姿も印象的です。

貸し出し写真２

色絵秋草文徳利

伊万里･柿右衛門様式　1670-90 年代　個人蔵

高 23.3cm 口径 2.0×1.8cm 底径（台座金具）9.1×8.5cm

柿右衛門様式は、ヨーロッパに輸出されました。その意味で、同時代に生きた人よりも今の私達の方が江戸時代の素敵なやきものを見ることができるわけです。

底に付けられた金色の台座をご覧下さい。これはヨーロッパで付けられたもの。柿右衛門様式はヨーロッパへの輸出が盛んになる中で生まれ、その優品はほとんどがヨーロッパに伝わったものです。この徳利もまさにヨーロッパからの里帰り品で、色絵を美しく見せるために生まれた乳白手の純白の地に端整な筆致で可憐な秋草が描かれています。

貸し出し写真３

色絵松帆掛船文皿「元禄六酉 柿」銘

伊万里　元禄 6 年(1693)　個人蔵

高 4.8cm 口径 23.5×17.2cm 底径 15.5×10.0cm

底に「元禄〇（年)」と「柿」の字が記されるところから「元禄柿」と呼ばれる作品があります。「柿」は酒井田柿右衛門家の柿と言われ、元禄八年、十二年と記される例がある中で、この皿は最も早い時期に作られたものと言えます。松と帆掛船を染付で描き、そこにたなびく源氏雲を染付、赤、緑そして金彩で飾っています。この作品は、柿右衛門様式に続く金襴手の要素をすべてにわたって高い水準で備えており、この時期に伊万里焼が新しい様式へと展開していったことを示しています。

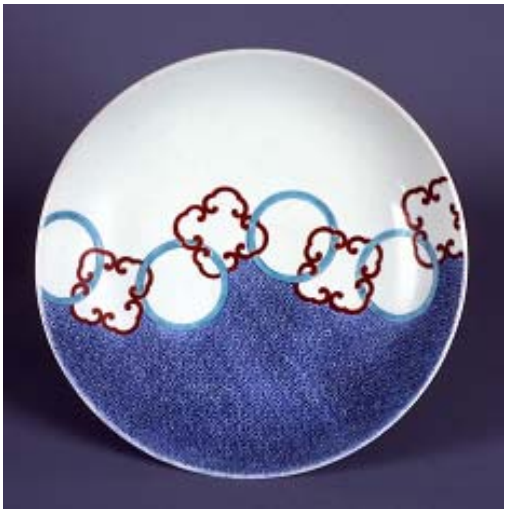
貸し出し写真４

色絵輪繋文三足大皿

鍋島　18 世紀　個人蔵

高 8.3cm 口径 26.0cm 高台径 15.5cm

日本のやきものの中で「完璧」という言葉が最もよく似合うのが鍋島です。技、意匠いずれをとっても完璧な世界を作り上げています。鍋島がとりわけ得意としたのが一尺、七寸、五寸といった定形の皿。鍋島はその限られた世界で洗練を極めました。この作品は鍋島尺皿の代表作のひとつで、高台のかわりに三脚が付けられています。輪繋ぎによって器面を二つに分割したこの皿は現代的な意味でのデザインを感じさせる作品と言えましょう。



貸し出し写真５

京焼

京焼の歴史は名工の歴史でもあります。京都という地にあって、その伝統と文化を背景により付加価値が高く優れたやきものを作る。こうした京焼の性格がブランドとしての「名工」を生み出したのでした。今回の展覧会では野々村仁清に始まり、尾形乾山、そして江戸後期の名工たちまでのそれぞれの作品に迫ることで、京焼の世界をご覧いただきます。

京焼もそれぞれのテーマにあった視点に立って展示が構成されています。仁清では、「絵」によって「器」をいかに飾ったか、さらに国宝色絵雉香炉（石川県立美術館蔵）に代表される独特の象形の世界などをご覧いただきます。乾山では、「絵としてのやきもの」という視点に立って、尾形光琳との合作による銹絵角皿をはじめとする乾山焼の世界に迫ります。その一方で、雅な京焼の代表でもある古清水をご覧いただき、江戸後期に輩出した奥田頴川、青木木米、仁阿弥道八、永楽保全といった名工たちの作品をご覧いただきます。

◇主な作品

色絵月梅図茶壺　重要文化財

仁清　17 世紀　東京国立博物館蔵

高 30.0cm 口径 10.6cm　胴径 27.1cm　底径 11.4cm

京焼を、そして日本陶磁を代表する名工・野々村仁清による茶壺の代表作です。やきものという立体を仁清は色絵によって飾ることを得意としました。この茶壺は満月の下に咲き誇る梅樹で飾られています。月と白梅は銀彩。今は酸化して黒ずんでいますが、制作当時はどれほど輝いていたことでしょう。この茶壺では胴だけではなく、頸の付け根までしっかりと絵が描かれています。球体に二次元の絵画を描くという困難に挑むことで、仁清はこの新しい境地を作り出したのです。

貸し出し写真６

銹絵水仙文茶碗

仁清　17 世紀　京都・天寧寺蔵　高 8.6cm 口径 12.4cm 高台径 4.0cm

色絵で有名な野々村仁清の作品の中で、華やかさとは対極にある名品です。仁清は堂上の茶匠として知られる金森宗和の指導のもとで茶陶を作り、その評価を高めていきました。この作品は、宗和が菩提寺である天寧寺に寄進したという水仙を描いた瀟洒な茶碗で、洗練された造形と意匠を特色をとするこの時期の代表作といえます。胴をくぼませた形、花の部分は白泥で盛り上げ型紙を使って吹墨で縁取るという繊細な技、まさに宗和と仁清とが作り上げた雅の世界です。

貸し出し写真７

色絵紅葉図透彫反鉢

乾山 18 世紀　個人蔵

高 12.0cm　口径 20.0cm　高台径 9.8cm

画家として有名な尾形光琳を兄に持ち、自身も絵を描いた尾形乾山（深省）は、「絵」と「やきもの」との間に新しい世界を作り上げました。最初に紅葉と流水という絵があります。それを乾山は反鉢という形に作り上げていきました。口縁の形や透彫の形は「絵」によって決まるのです。乾山はさらに「視点」を導入しました。斜め上から見下ろす、言い換えれば畳の上にある反鉢を眺めるという視点。そこから見れば、器の内と外が一体となり、奥行きのある「絵」が出来上がります。

貸し出し写真８

色絵龍田川図向付

乾山　18 世紀　滋賀・MIHO MUSEUM 蔵

高 3.4cm 口径 16.3cm×18.0cm 底径 9.0cm

尾形乾山（深省）は絵師として名高い光琳の弟で、陶技を野々村仁清に学んでいます。乾山の作陶の特色のひとつは絵をそのままやきものにしていくことでした。兄光琳との合作である銹絵角皿（東京国立博物館蔵）はその代表ですが、この色絵の向付もまさにそうした作品のひとつです。紅葉が龍田川を流れる姿、日本の和歌に由来するこの情景を描き、余分なものをすべて捨て去る。それをそのままやきものとしたのが、紅葉と流水だけを現わしたこの向付なのです。

貸し出し写真９

色絵笙形掛花入

古清水　18 世紀　京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）

高 25.0cm

古清水ほど雅のやきものという言葉が似合うものも無いかもしれません。いわゆる名工の作品ではありませんが、文化と伝統の地、京都でしか生まれ得なかったという意味で、古清水は雅のやきものとなりました。18 世紀、京焼の色絵は赤を失っていきます。京焼独特の黄色みを帯びた地に緑、青、そして金彩で飾られるようになるのです。掛花入に雅楽で用いられる伝統の楽器である笙の形を採用する。伝統と文化の地にあって、創り出されたいかにも京焼らしい作品です。

貸し出し写真１０

煎茶道具一式

青木木米　19 世紀　東京国立博物館蔵

青木木米は仁阿弥道八、欽古堂亀祐らと同様に京焼の磁祖といわれる奥田頴川のもとで陶技を学びました。その作品の中でとりわけ名高いのが煎茶道具です。この煎茶道具一式で、木米は染付、赤絵、呉須手、交趾、高麗青磁、南蛮など実にさまざまな技法を見せてくれています。

日本、中国、朝鮮などのありとあらゆる陶技に精通していた江戸後期の京焼の名工達は、こうした技を背景にさまざまな名品を作り出し、また請われて多くの地方に赴き、その技を伝えていきました。

貸し出し写真１１

関連事業

①　10 月 22 日（土）13：30～15：00
「仁清の茶壺」　大手前大学人文科学部助教授　岡佳子
②　11 月 19 日（土）13：30～15：00
「伊万里磁器の魅力に迫る」　出光美術館主任学芸員　荒川正明

事前申込制（各回定員 380 名）
聴講無料（ただし、特別展「華麗なる伊万里・雅の京焼」の観覧券が必要）

申込方法：官製往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号、希望日を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、下記までお申し込みください。
＊1 枚のはがきで、1 人のみ申し込み可能
＊応募多数の場合は、抽選のうえ聴講券を送ります。
申込締切：①10 月 7 日（金）必着　②11 月 4 日（金）
申込先：〒151-0063　渋谷区富ヶ谷 1-19-4 代々木パークビル 202 アート･ベンチャー･オフィス ショウ内「伊万里・京焼」講演会係

本展覧会に関するお問い合わせ・写真借用申込先
〒151-0063　渋谷区富ヶ谷 1-19-4 代々木パークビル 202
アート･ベンチャー･オフィス ショウ
TEL03-3485-7866　FAX03-3485-7851

FAX03-3485-7851

華麗なる伊万里、雅の京焼 写真借用・招待券プレゼント申込書

アート･ベンチャー･オフィス ショウ　御中

貴社名			
部署名		担当者	
住所			
TEL		FAX	
E-mail			

掲載・放映予定

媒体名・番組名 （WEB の場合は URL 記入）	
発行日・放映日	年　　月　　日　　時間　　：　　～　　：

写真借用申込　（　　月　　日　までに希望　）

	作品名	紙焼き	データ
１	染付吹墨月兎図皿　東京国立博物館蔵		
２	色絵蝶牡丹図大鉢　個人蔵		
３	色絵秋草文徳利　個人蔵		
４	色絵松帆掛船文皿「元禄六酉 柿」銘　個人蔵		
５	色絵輪繋文三足大皿　個人蔵		
６	色絵月梅図茶壺　東京国立博物館蔵		
７	錆絵水仙文茶碗　京都・天寧寺蔵		
８	色絵紅葉図透彫反鉢　個人蔵		
９	色絵龍田川図向付　MIHO MUSEUM 蔵		
１０	色絵笙形掛花入　京都府立総合資料館蔵		
１１	煎茶道具一式　東京国立博物館蔵		

読者・視聴者用招待券プレゼント申込

写真掲載	する	しない
プレゼント希望枚数	組	名

＊５組１０名まで、写真掲載いただける場合は１０組２０名まで

■本展覧会をご紹介いただく場合、記事・番組内容について情報確認のため校正刷りの段階で広報事務局まで FAX にてお送りください。写真掲載の際は、作品名・所蔵者名を明記してください。写真は本展覧会の広報を目的とする記事・番組に限って一回のみ使用可能です。本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。

■掲載紙・誌、ビデオなどを広報事務局まで必ずお送りください。